

8年間ではっきりしたひとつ、忘れてはいけないうひとつ

福島原発事故からもうすぐ丸8年!!

東日本大震災が発生した2011年3月11日、津波により奪われた人命、破壊された街並みに恐れおののいていた私たちは、続いて起きた東京電力福島第一原発の事故の映像を見て日本はどうなるのだろうか?という絶望的な不安に震えたことが忘れられません。

福島第一原発が立地している双葉町には「原子力 未来の 明るいエネルギー」という道路看板がかかっていたように、原発は1950年代の導入以来、「原子力の平和利用」という名目のもと、「安全」「クリーン」「低コスト」なエネルギーとして国策で推進されてきました。そしてそこに投ぜられる巨額の国費に群がる「げんしりょく原子力ムラ」が原子力政策を牽引してきました。

しかし事故から8年たった今はっきりしたのは

原発は

- ・安全ではない!
- ・クリーンではなく汚いエネルギーであること!



原発事故で拡散した放射能汚染のため、いまだに4万人以上の住民が避難を続けざるを得ないほどの汚染をもたらして。また、事故が起きなくても原発は稼働しただけで使用済み核燃料をはじめとする放射能に汚染された「核のごみ」を出し、核燃料サイクルを続ければ10万年も地球を汚染し続ける、より有毒な「核のごみ」が生み出されます。原発が再稼働されている現在、それらのごみの処分場所も決まらないまま、「核のごみ」は増え続けています。

・コストは高い!

原発のコストは、実はもともと安くなかった、という研究もありますが、福島事故後は、安全対策費の高騰により、この8年間で原発にかかるコストは急騰し、もはや国の援助なしには維持できない、経済的に見合わないものになっています。アベノミクスの中核の経済効果を担うはずだった海外への原発輸出がことごとく断念に追い込まれたのは、原発のコスト高のためです。

そして、8年たった今も、福島^の被災者の方々の故郷での平穏な生活を奪われた苦悩、家族を分断された苦悩、子どもたちの健康被害の不安は続いていることを私たちは忘れてはならないと思います。

原発反対! 私たちは原発依存からの一日も早い脱却を訴えます。



Bye-Bye 原発/国分寺の会